

ISSN 1882-0468

ISSN-L 1882-0468

# NDL 書誌情報ニュースレター

## 2011年2号(通号17号)

### 目次

「国際」規格であるということ--ISO/TC46 会議 シドニー大会報告 (収集・書誌調整課 河合 将彦)	1
「国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス(Web NDL Authorities)開発版」 を公開しました (収集・書誌調整課 書誌調整係)	3
お知らせ:博士論文の遡及入力が終了しました (関西館 収集整理課 整理係)	9
お知らせ:講演会「MARC21 フォーマットについて—Aleph システム導入の経験から」 開催について (収集書誌部)	10
コラム:書誌データ探検 分類(2) 分類表の解釈:「日本十進分類法新訂9版分類 基準」 (国内資料課 高橋良平)	11
掲載情報紹介	14
編集者からの一言	16

## 「国際」規格であるということ—ISO/TC46 会議 シドニー大会報告

2011年5月3日から6日まで、オーストラリアのシドニーで開かれた ISO/TC46 (情報とドキュメンテーション専門委員会) の大会に参加しました (ISO や TC46 については、[本誌 2009 年第 3 号 \(通号 10 号\)](#) をご覧ください)。筆者にとっては一昨年の[ナイロビ大会](#)、昨年の[濟州島大会](#)に続き、3 回目の参加でした。TC46 総会、筆者が担当している SC9 の会議のほか、SC4、SC8、SC11 のすべての分科会が開催され、日本からは 5 人が参加しました。

今回の TC46 総会では、「識別子 (コード)」についての分かりやすい図が ISO の刊行物に掲載されたとの報告がありました。

[http://www.iso.org/iso/iso-focusplus\\_centerfold\\_11-04.pdf](http://www.iso.org/iso/iso-focusplus_centerfold_11-04.pdf) [PDF File 1.18MB]

普段はあまり意識しませんが、日常生活のあちらこちらに「コード」が用いられています。そのうち、情報のコードを扱うのが、TC46、特に SC9 です (この図には TC46 以外のコードも含まれています)。図の右上の解説には、「Hundreds of ISO code standards routinely contribute to saving time, space and energy」とあります。たとえば、ISBN という「コード」は、ある単行本とそれが文庫化されたものを見分けるために有用です。タイトル、著者、出版社が同一だとすると、出版年で見分けるか、大きさやページ数で見分けるか……。けれども、ISBN が単行本とその文庫本とで区別して正確に付与されていれば、一発で判断できる、つまり「saving time」というわけです。一方で、「コード」が幅広く使われるということは、その管理についても慎重にならざるを得ない、ということでもあります。たとえば国名コードについて考えてみましょう。一言で「国」といっても、その地域を国と認めるかどうかについては、政治的にいろいろな問題があります。[Wikipedia の「国の一覧」](#)に数々の注がついているように、慎重に取り扱わなければならない問題です。

「ISO の国名コードでどう扱われているか」も、大きな影響力を持つ基準の一つと言えるでしょう。ISO の決定が国際問題につながる可能性もあるわけです。こうした問題についても、TC46 の会議で扱うこととなります。

また、識別子の運用においても、世界中で何十もの国が採用していると様々な問題が起きてきます。今回 SC9 の会議で取り上げられたのが、「登録機関」の問題です。識別子のいくつかは、一つの機関が識別子そのものを管理し、そこに登録した各国の機関が運用するシステムになっています。たとえば ISSN については、国立国会図書館がパリの ISSN 国際センターに登録して「[ISSN 日本センター](#)」となり、日本国内のデータの維持管理をしています。しかし、会議では、登録していない機関が無断で識別子 (正確には、「識別子に見える数字」) を発行しているという問題が提起されました。世界中で使われている識別子は、正確にコントロールされることが重要ですので、ルールから外れた運用は大きな問題として、今後検討されることになりました。

この他の書誌に関する話題として、TC46 総会に、[IFLA の目録分科会](#)からメッセージが寄せられた

ことがあります。ISO が扱う分野は幅広く、関連する団体などは多数にのぼります。そのため、同じようなテーマを扱う団体と「リエゾン」という関係を結び、情報交換などを行っています。TC46 は、SC9 が扱っている識別子や SC8 が扱っている「図書館の評価」など、図書館と直接関係があるテーマも多いため、IFLA をリエゾンメンバーとしています。今回の会議では、IFLA の目録分科会から、最近の動向として、「ISBD 統合版」の改定版が刊行される予定であること、FRAD や FRSAD が完成したこと、MulDiCat (Multilingual Dictionary of Cataloguing Terms、目録用語の多言語辞典) の初版を公開したことなどが報告され、IFLA と TC46 で今後も協力していくことが確認されました。



多くの国や団体が、それぞれの情報を交換し（国同士のかけひきなどもありつつ）、利害を調整しながら、社会を効率よく動かすための仕組み（saving time, space and energy）を作っていく。「国際規格」というものの本質を体感することができた会議でした。

来年の会議はベルリンで開催される予定です。

河合 将彦  
(かわい まさひこ 収集・書誌調整課)

## 「国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス (Web NDL Authorities)

### 開発版」を公開しました

国立国会図書館は、[2010年6月からウェブ版の国立国会図書館件名標目表 \(以下、Web NDL SH\)](#) を提供してきました。当館はこれを発展させ、新たに個人名や団体名などの典拠データを提供範囲に追加し、機能を拡張した「[国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス](#)」(以下、Web NDL Authorities) の「[開発版](#)」を2011年7月7日に公開しました。

「開発版」では、最新データが提供できない等の制約がありますが、約100万件 [1] の典拠データを検索・ダウンロードし、ウェブ上のさまざまなアプリケーションやシステムで活用できるようになりました。

なお、本格サービス開始については、2011年12月を予定しています。

#### 1. 開発版におけるデータ更新

「開発版」で提供しているデータは、2011年4月1日時点のものです。この開発版は同サービスの検索機能等を検証するためのもので、データ更新の仕組みはありません。**本格サービス開始までデータの更新が行えないことにつきまして、どうぞご理解ください。**ただし、「[国立国会図書館の書誌データに関する個人情報保護対策基準](#)」に規定する申請があり、緊急の対応が必要と認められる場合には、データ削除等の修正を行います。

2011年12月からの本格サービスでは、データの自動更新機能を実装し、また、新設件名標目のRSS配信を行う予定です。

#### 2. 収録内容

「Web NDL SH」で提供してきた件名典拠に加え、Web NDL Authorities では新たに名称典拠 (個人名・家族名・団体名・地名・統一タイトル) のデータも収録します。個人名および団体名典拠を収録することにより、長らく望まれてきた「著者名典拠」の、ウェブでの提供が実現されました。

各典拠データに含まれる項目については、[\[表1\]](#) をご覧ください。

#### 3. 個々の典拠レコードには「URI」が付与されています

Web NDL Authorities では、個々の典拠に個別のURI (Uniform Resource Identifier) を与えています。このURIにより、特定個人や団体をウェブ上で半永久的に識別することが可能です。

「長尾, 真, 1936-」(典拠 ID 00104393) の場合

<http://id.ndl.go.jp/auth/ndlna/00104393>

「国立国会図書館」(典拠 ID 00288347) の場合

<http://id.ndl.go.jp/auth/ndlna/00288347>

たとえば、人名をウェブで検索したとき、同姓同名の別人が検索結果に混ざってしまい、それを分けることができず、困ったことはないでしょうか。また、一つの名称でも、漢字形やローマ字形など、表記の仕方がさまざまのため、何度も検索語を変えて検索しなくては網羅的な結果を得られず、苦労したことはないでしょうか。

図書館目録における著者標目 [2] や件名標目 [3] には、「見かけは同じだが実体は違うものを区別して」検索できる、また、「見かけは異なるが実質的に同じものをまとめて」検索できるという利点があります。こうした著者標目や件名標目を支える仕組みが典拠 [4] です。Web NDL Authorities では、各々の典拠データが固有の URI を持ちます。

これによって、たとえばウェブで検索対象となる名称等がすべて Web NDL Authorities における固有 URI とリンクされていれば、目録における標目を活用したような効果的な検索ができ、前述のような困惑や苦労は解消されます。

#### 4. ウェブ時代の「機械可読形式」

コンピュータがデータ構造や意味を自動的に解析して処理する等の「次世代ウェブ」構想を「セマンティック・ウェブ」と言います。Web NDL Authorities のデータはすべて、セマンティック・ウェブの技術に対応しています。コンピュータに理解可能な記述モデルである [RDF](#) をデータの記述に使用しており、API の一種である [SPARQL](#) というクエリ言語を利用して、外部システムから自動的に検索をかけて、結果を取得することが可能です。これまで、国立国会図書館の典拠データは、機械可読目録 (MARC) の形式で提供しており、今後もその頒布は続けていくのですが、Web NDL Authorities はまさにウェブ時代の「機械可読形式」で提供されていると言えます。

#### 5. 検索とダウンロード

Web NDL Authorities では、典拠の標目形・参照形・読み (カタカナ読み・ローマ字読み) の完全一致・部分一致で検索できるほか、日本十進分類法 (NDC) および国立国会図書館分類表 (NDLC) の 2 種類の分類記号から検索することができます。

さらに、URL を用いて検索結果にリンクすることができます。

- <http://id.ndl.go.jp/auth/ndla/?qw=文学&g=all>
- <http://id.ndl.go.jp/auth/ndla/?qw=太陽&g=na>
- <http://id.ndl.go.jp/auth/ndla/?qw=野球&g=corporateNames>
- <http://id.ndl.go.jp/auth/ndla/?qc=KS12&pfX=NDLC>

引数 (パラメータ) の形式については、[\[表 2\]](#) をご覧ください。

個々の典拠データをダウンロードする際には、「RDF/XML 形式」、「RDF/Turtle 形式」、「JSON 形式」の 3 つの形式を選べます。

また、『国立国会図書館件名標目表』収録対象の件名典拠については、一括してダウンロードができます。「[一括ダウンロード用ファイル](#)」のページから、「RDF/XML 形式」「TSV 形式」の 2 つの形式で取得することができます [\[5\]](#)。このファイルには名称典拠は含まれません。

## 6. 今後の展開

これまで当館の典拠データは、JAPAN/MARC や NDL-OPAC という閉じたシステムの中でしか利用できませんでした。しかし、このシステムでは、URI や SPARQL によって、外部からも典拠データを参照したり、検索したりすることが可能になりました。一例として、[国立国会図書館サーチ](#)と連携し、関連キーワードの提示や、著者標目からの典拠コントロールされた再検索など付加価値の高い検索機能を実現しています。今後は、[ヴァーチャル国際典拠ファイル \(The Virtual International Authority File; VIAF\)](#) などを通じて海外へも提供し、我が国を代表する標準的データとして扱われるよう努めてまいります。

[表 1] 典拠データ項目名とその内容

項番	項目名	内容
1	ID	典拠データ固有の番号。
2	標目	典拠データの標目形。 ルビとしてカタカナ読みが表示されます (ルビの表示はブラウザに依存しています)。 細目付き件名の主標目と細目、または細目同士は2つの半角ハイフン「-」で連結しています。
3	別名 (を見よ参照)	個人名・家族名・団体名・地名・統一タイトルの「を見よ」参照形。 ルビとしてカタカナ読みが表示されます (ルビの表示はブラウザに依存しています)。 個人名・団体名において、「名称の種類」(旧称・新称・略称・本名など)が記録されている場合は、標目形「森鷗外 (1862-1922)」の参照形「森林太郎 (本名)」のように、「名称の種類」が括弧つきで参照形の後ろに付記されます。
4	同義語	地名・普通件名・細目の「を見よ」参照形。 ルビとしてカタカナ読みが表示されます (ルビの表示はブラウザに依存しています)。 英字表記の同義語については、米国議会図書館 (LC) の典拠データ・コード・語彙の提供サービスである <a href="#">「Authorities &amp; Vocabularies」</a> に動的に問い合わせを行い、リンク可能な場合のみ、「LCSH」と表示されます。
5	別名 (をも見よ参照)	個人名・家族名・団体名・統一タイトルの「をも見よ」参照形。 名称の種別が「新称」「旧称」「本名」である場合は、項目名の後に種別を示す文字列が表示されます。
6	上位語	地名・普通件名の上位語 (グラフィカル表示可能)。 リンクをクリックすると、当該語を標目とする典拠データに遷移します。
7	下位語	地名・普通件名の下位語 (グラフィカル表示可能)。

		リンクをクリックすると、当該語を標目とする典拠データに遷移します。
8	関連語	地名・普通件名の関連語(グラフィカル表示可能)。 リンクをクリックすると、当該語を標目とする典拠データに遷移します。
9	参 考 (rdf:seeAlso)	「主標目としても使用される細目」(例:年鑑)が、細目付き件名に含まれている場合、主標目と細目に分割され、それぞれの典拠データへのリンクが表示されます。
10	生年	個人名典拠に記録されている個人の生年。
11	没年	個人名典拠に記録されている個人の没年。
12	専攻	個人名典拠に記録されている個人の専攻。
13	職業・経歴	個人名典拠に記録されている個人の職業・経歴等。
14	設立年	団体名典拠に記録されている団体の設立年。
15	廃止年	団体名典拠に記録されている団体の廃止年。
16	期間	団体が廃止後に再度設立された場合の団体の活動期間。
17	来歴	団体名典拠に記録されている団体の来歴等。
18	分類記号	地名・統一タイトル・普通件名に付与された代表的な分類記号。 リンクをクリックすることにより、同一の“NDC”、“NDLC”を分類記号として持つ典拠データの一覧表示画面に遷移します。
19	関連リンク	LCのコントロール番号(LCCN)、または基本件名標目表(BSH)のID番号。 LCCNがLCの件名標目(LCSH)の番号である場合にはLCの <a href="#">「Authorities &amp; Vocabularies」</a> へとリンクし、名称典拠の番号である場合にはVIAFへリンクします。 BSHのID番号が表示されるのは、項目4の「同義語」に表示される参照形とBSHの標目形が一致する場合のみ。BSHへのリンクは表示されません。
20	出典	標目確立の根拠となった初出の資料のタイトルと責任表示、標目形を確定する際に根拠とした参考資料名等を表示します。
21	出典／関連リンク	当該典拠データの標目形とBSHの標目形が一致する場合に、そのBSHのID番号を表示します。
22	注記	注記(「をも見よ」参照の指示、地理区分の可否等を含む)が表示されます。著者標目として使用している典拠のうち、機械的に生成されたものには「機械抽出典拠」、遡及入力時に作成されたものには「遡及入力典拠」と表記されています。件名標目として使用している典拠のうち、和図書で使用実績がない場合は「和図書不使用」と表記されています。
23	編集履歴	標目訂正に関する情報。

24	作成日	当該典拠データの新規作成日。
25	最終更新日	当該典拠データの最終更新日。
26	参考	標目形と同一の文字列の語彙がWikipediaの項目名にある場合は、当該Wikipedia ページへのリンクを表示します。文字列のマッチングおよびリンク生成は機械的なものであり、国立国会図書館においてWikipediaの情報の信頼性を保証するものではありません。

[表2] 検索引数の形式

No	項目	説明	一致条件
1	w	キーワード検索を行います。(検索対象語彙：標目形、標目形の読み(カタカナ読み・ローマ字読み)、参照形、参照形の読み(カタカナ読み・ローマ字読み))	部分一致
2	g	検索対象とする典拠種別の指定を行います。 指定できる値は以下のとおりです。 “all”：すべて “na”：個人名・家族名・団体名・地名・統一タイトル “sh”：普通件名・細目 “personalNames”：個人名 “familyNames”：家族名 “corporateNames”：団体名 “geographicNames”：地名 “uniformTitles”：統一タイトル “topicalTerms”：普通件名 “sub”：細目	完全一致
3	c	“NDC”、“NDLC”の分類記号による検索を行います。	完全一致
4	px	“NDC”、“NDLC”のいずれかの値を指定します。 分類記号検索を行う場合、この引数は必須になります。	完全一致

(収集・書誌調整課 書誌調整係)

[1] 典拠レコードの累積件数については、「典拠データ提供統計」をご覧ください。  
[http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/wt\\_data.html#data2](http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/wt_data.html#data2) , (参照 2011-6-14)

[2] 著者標目については、以下の記事もご覧ください。

コラム：書誌データ探検 人名の標目―「個人」vs.「人格」編

[http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo\\_3507133\\_po\\_2008\\_4.pdf?contentNo=1](http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_3507133_po_2008_4.pdf?contentNo=1)

コラム：書誌データ探検 人名の標目—「著者標目」vs. 「人名件名標目」編

[http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo\\_3507134\\_po\\_2009\\_1.pdf?contentNo=1](http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_3507134_po_2009_1.pdf?contentNo=1)

コラム：書誌データ探検 団体名の標目—企業、大学、一筋縄ではいかない団体名標目の選び方

[http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo\\_3050797\\_po\\_2010\\_2.pdf?contentNo=1](http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_3050797_po_2010_2.pdf?contentNo=1)

コラム：書誌データ探検隊 これまた一筋縄ではいかない、“団体名の変化”を追いかけよう！

[http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo\\_3050798\\_po\\_2010\\_3.pdf?contentNo=1](http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_3050798_po_2010_3.pdf?contentNo=1)

[3] 件名標目については、以下の記事もご覧ください。

コラム：書誌データ探検 件名(1) 図書館版キーワード検索—件名標目とは？

[http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo\\_3507135\\_po\\_2009\\_2.pdf?contentNo=1](http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_3507135_po_2009_2.pdf?contentNo=1)

コラム：書誌データ探検 件名(2) NDL SH メイキング—件名標目新設の現場

[http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo\\_3507136\\_po\\_2009\\_3.pdf?contentNo=1](http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_3507136_po_2009_3.pdf?contentNo=1)

コラム：書誌データ探検 件名(3) 事前結合方式—件名標目の可能性の中心

[http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo\\_3507137\\_po\\_2009\\_4.pdf?contentNo=1](http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_3507137_po_2009_4.pdf?contentNo=1)

コラム：書誌データ探検 件名(4) 件名標目はウェブの中へ—セマンティック・ウェブ、トピックマップ…

[http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo\\_1166400\\_po\\_2010\\_1.pdf?contentNo=1](http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_1166400_po_2010_1.pdf?contentNo=1)

[4] 典拠については、以下の記事もご覧ください。

What's 書誌調整？ 第3回 典拠ってなんだ

<http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/whats/3rd.html> , (参照 2011-6-14)

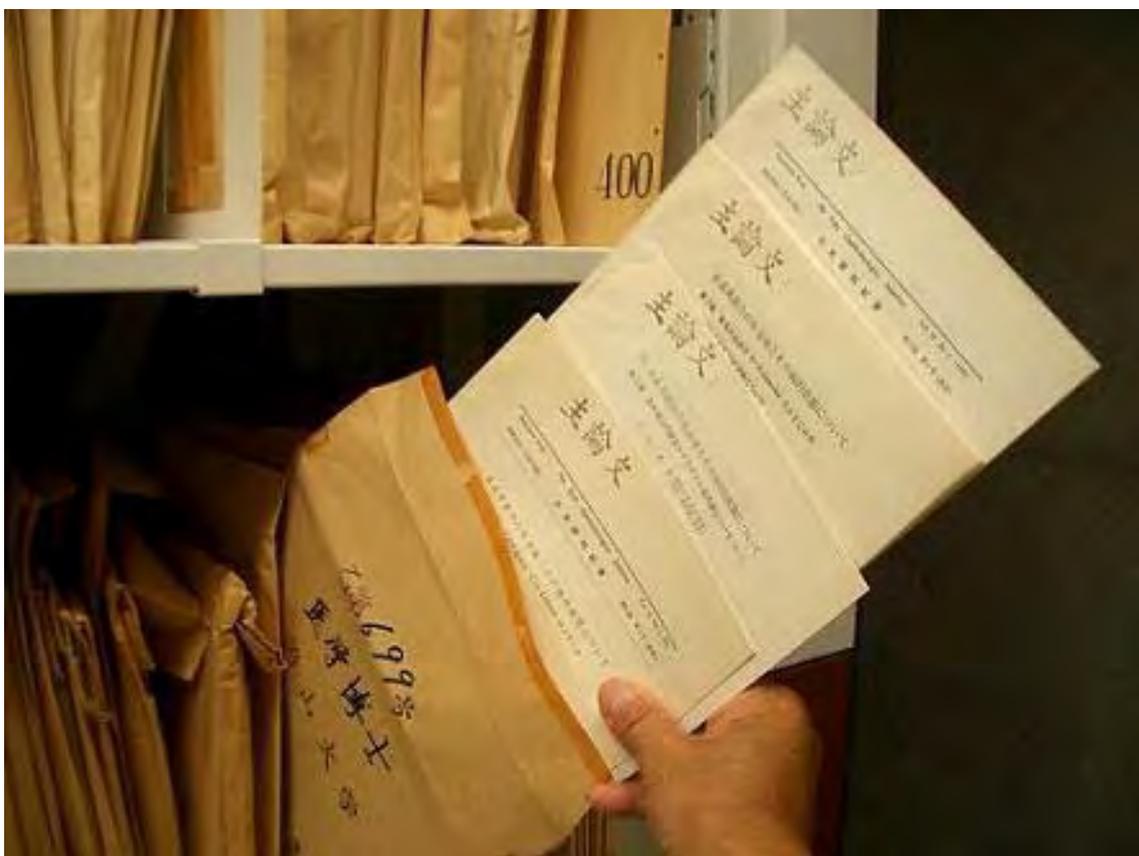
[5] 一括ダウンロード用ファイルは、非営利目的に限り、申請なしで自由にダウンロードしていただくことができますが、それに基づき研究成果の発表等を行う場合、「Web NDL Authorities」を利用している点を明記してください。

## お知らせ：博士論文の遡及入力が終了しました

1923年9月から1983年までに受け入れた約17万3千件の国内博士論文の遡及入力作業について、2004年8月から実施し、2011年3月に完了しました（一部、報告番号が不明なもの、著者名の読みが推定のデータなどがあります）。

これにより、帝国図書館から所蔵を引き継いだものを含め、当館が所蔵している1923年9月以降の国内博士論文は、2011年5月から[国立国会図書館蔵書検索・申込システム \(NDL-OPAC\)](#) で全件の検索が可能となりました。

博士論文は国立国会図書館関西館で所蔵しています。



(関西館 収集整理課 整理係)

## お知らせ：講演会「MARC21 フォーマットについて—Aleph システム 導入の経験から」開催について

当館では、平成 24 年 1 月から [書誌データを MARC21 フォーマットで作成・維持管理](#)し、また、[JAPAN/MARC を MARC21 フォーマットで提供いたします。](#)

慶應義塾大学では、当館よりも先行して MARC21 フォーマットを採用し、Aleph 等を導入して書誌データの作成等を行っています。同大学で 2008 年 12 月から 2010 年 9 月まで設置された次期システムプロジェクト室の室長として、導入に携わってきた入江伸氏から、導入経験に基づくお話などを伺います。

### <講演会の概要>

- 日時 2011 年 7 月 28 日 (木) 午前 10 時から 12 時まで (午前 9 時 30 分から受付開始)
  - 会場 国立国会図書館 東京本館 新館 3F 大会議室
  - 内容・講師
- (1) 講演 MARC21 フォーマット—Aleph システム導入の経験から  
講師：入江 伸 氏 (慶應義塾大学メディアセンター本部課長)
  - (2) 質疑応答

当館職員向けの講演会ですが、席に若干の余裕がございますので、聴講をご希望の方は、2011 年 7 月 25 日 (月) までにお電話にて問い合わせ先までお申し込みください。

定員に達したところで受付を終了いたします。入場は無料です。なお、会場は東京本館のみです。

お問い合わせ先  
国立国会図書館 収集書誌部 収集・書誌調整課 書誌調整係  
電話 03 (3581) 2331 (代表)

(収集書誌部)

## コラム：書誌データ探検 分類 (2)

### 分類表の解釈：「日本十進分類法新訂9版分類基準」

[前回のコラム](#)では、分類が主題検索に有効なツールとなることをお話ししました。分類表は、あらゆる知識を収めた壮大な知識体系です。「知識を分類表の適切な場所に位置づけ他の知識との関係性を示す」という機能は、ウェブ上に情報が満ちている現代においても決して色あせることはありません。しかしその機能を有効に活用するためには、日々進歩して行く知識に伴って出現する新しい主題への対応が必要となります。また、一度は定まった分類表も、それを使って分類作業を行っていく中で、解釈について「ゆれ」が生じることもあります。

たとえば、今では日常生活になくはならない存在となったインターネット。日本図書館協会が発行し日本で広く使われている「日本十進分類法」(NDC)には、しかしながら、「インターネット」という言葉は存在しません。これは1995年の新訂9版刊行以来、新しい版が出ていないためです。いわば、NDCの表自体は1995年時点で時が止まってしまっているのです。(その後、「補遺」という形での若干の分類項目追加はありましたが。)

それではNDCという分類体系の中に「インターネット」を収めることはできないのでしょうか。いえいえ、そんなことはありません。もともとNDCには、その適用方法に決まりが設けられていて(これを「分類規程」といいます)、たとえばNDC内に項目名として挙がっていない新しい主題の本については、「その主題と最も密接な関係があると思われる主題を考察し、その分類項目に収める」こととなっています。

とはいえ、新しい主題について、分類作業担当者がそれぞれに分類表を解釈し、独自の判断で「密接に関係がある」と思う分類項目へ収めてしまっては困ります。そこで当館では、NDCに定められた分類規程を更に補足するための独自の分類規程である「[日本十進分類法新訂9版分類基準](#)」を設けています。

この「日本十進分類法新訂9版分類基準」は、2000年に初版を公開、2003年に若干の改訂を行い、さらにその後作成した新規基準および従来の基準の見直し等を反映して、2010年12月に、2010年版としてNDLホームページで公開されました。では、早速見てみましょう。

日本十進分類法新訂9版分類基準

**547.48 データ通信**

データ通信網<一般>(工学的, 概論的なもの)は, ここに収める

例)「情報ネットワーク概論」547.48

パソコン通信, 電子メール<一般>はここに収める

**547.483 データ通信網**

インターネット<工学>は, ここに収める

ホームページ, JAVA, WWWのブラウザ等は, ここに収める

事業の設立主体のあるものは, 547.4833/4835に収める

**547.4833 公衆データ通信網. 広域データ通信網**

付加価値通信網 [VAN], ISDN, パソコン通信ソフト等は, ここに収める

『日本十進分類法新訂9版分類基準』より

547.483に「インターネット<工学>は, ここに収める」とNDC自体にはない注記がされています。こうして、当館の「日本十進分類法新訂9版分類基準」によって、NDCの中にインターネットの居場所が決まりました。NDC本表の該当箇所と比べてみると、「日本十進分類法新訂9版分類基準」によって、分類項目の意味がはっきりしたことがよく分かります。

**547 通信工学. 電気通信**

547.48 データ通信 →:548

547.481 データ通信回路

547.482 データ通信方式

547.483 データ通信網

547.4833 公衆データ通信網. 広域データ通信網

『日本十進分類法新訂9版』より

「日本十進分類法新訂9版分類基準」の役割は新主題の収め方を決めることだけではありません。資料のなかには、複数のトピックや観点が絡まり合っているために、分類表のどこに収めていいのか迷うものがあります。このような場合への対処方法についてはNDC本体の分類規程にあります。当館は「日本十進分類法新訂9版分類基準」によってこれをさらに補足しています。

たとえば、『魚介類を使った、インドの家庭料理』という本があるとします。NDCでは、様式によって分ける場合(596.22「インド料理」)、材料によって分ける場合(596.35「魚介料理」)、料理のシチュエーションで分ける場合(596.4「家庭料理」)が並列的に記載されていますが、どれを優先させるかは明記されていません。

596.2	様式別による料理法. 献立
596.21	日本料理
596.22	アジアの料理: 中国料理, 朝鮮料理, <u>インド料理</u>
596.3	材料別による料理法: 卵料理, 漬物, 賞物 →:628.8
596.35	<u>魚介料理</u>
596.4	季節・場所による料理: <u>家庭料理</u> , 野外料理, 弁当, ...

『日本十進分類法新訂9版』より

この本は、インド料理を扱っているから 596.22 でしょうか、いやいや魚を使った料理ととらえて 596.35 でしょうか、そもそも家庭料理なのだから 596.4 でしょうか。これはどこか一つに決めなければなりません。当館は「日本十進分類法新訂9版分類基準」によって次のように定めています。

<b>596.2 様式別による料理法. 献立</b> 材料別による料理法 (596.3) よりも、 <u>様式別の料理法を優先する</u>
<b>596.21 日本料理</b> 上記の項に、「→:791.8」の参照を追加する
<b>596.3 材料別による料理法: 卵料理, 漬物, 賞物</b> 米飯および炊飯は、ここに収める
<b>596.4 季節・場所による料理: 家庭料理, 野外料理, 弁当, おやつ, 駅弁, パーティー料理</b> <u>家庭料理は、各種の料理法の下に収める</u>

『日本十進分類法新訂9版分類基準』より

まず 596.4 の注記で、家庭料理はそれぞれの料理法に収めるように指示されています。これで選択肢は 596.22 「インド料理」または 596.35 「魚介料理」のどちらかに絞られました。更に 596.2 の注記で、材料（魚介料理）よりも様式（インド料理）が優先するように指示されています。つまり、  
様式別（インド料理） > 材料別（魚介料理） > 家庭料理  
となるわけです。こうして当館では『魚介類を使った、インドの家庭料理』は 596.22 「インド料理」に収めることが分かります。

「日本十進分類法新訂9版分類基準」は、他に分類項目の新設・廃止や使用する分類記号のケタ数の制限なども含み、当館における NDC による分類作業の基本方針と表の解釈の基準を示しているのです。

高橋 良平

(たかはし りょうへい 収集書誌部国内資料課)

## 掲載情報紹介

2011年4月1日～2011年7月7日に、国立国会図書館ホームページに掲載した書誌情報に関するコンテンツをご紹介します。

- ・[「国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス \(Web NDL Authorities\)」の開発版を公開しました](#)  
「国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス (Web NDL Authorities)」の開発版を公開しました。当館が維持管理する典拠データを一元的に検索・提供するサービスです。

(掲載日：7月7日)

- ・[書誌データにおける個人情報の取扱いに関する文書を掲載しました](#)

「国立国会図書館の書誌データに関する個人情報保護対策基準」および「国立国会図書館の書誌データにおける個人情報の取扱いについて」を掲載しました。

(掲載日：6月22日)

- ・[公共的書誌情報基盤に関する説明資料を掲載しました](#)

「書誌データの基本方針と書誌調整：基本方針」のページに、公共的書誌情報基盤に関する説明資料を掲載しました。

(掲載日：5月24日)

- ・[「JAPAN/MARC 2009 フォーマットで提供するデータ内容の一部変更の概要」を掲載](#)

「JAPAN/MARC 2009 フォーマットで提供するデータ内容の一部変更の概要」を掲載しました。

(掲載日：5月23日)

- ・[書誌データ Q&A のページを更新しました](#)

書誌データ Q&A のページを更新しました。

(掲載日：5月17日)

- ・[「JAPAN/MARC MARC21 フォーマット」を掲載しました](#)

2012年1月からの提供を予定している「JAPAN/MARC MARC21 フォーマット」の仕様を掲載しました。

(掲載日：5月6日)

- ・[雑誌記事索引採録誌一覧を更新](#)

当館が作成している雑誌記事索引に、現在記事を採録中もしくは過去に採録したことのある雑誌の一覧を更新しました。2011年5月23日現在の採録誌総数は、20,324誌で、そのうち、現在採録中のものは10,574誌、廃刊・採録中止となったものは9,750誌です。

(掲載日：5月23日)

・ [分類・件名 国立国会図書館件名標目表 \(NDLSH\) 2008年度版追録\(2011年3月～2011年5月\)](#)

2011年3月～2011年5月に更新した件名標目のリストです。各月に新設した件名には以下のものがあります。

2011年3月：「音風景」 「紅葉」 「坂道」 など

(掲載日：4月11日)

2011年4月：「エクステリア」 「職業訓練 (障害者)」 「ユースオリンピック」 など

(掲載日：5月20日)

2011年5月：「東日本大震災 (2011)」 「連絡帳 (教育)」 など

(掲載日：6月10日)

## 編集者からの一言

とある国立図書館の状況です。

《そもそもこの図書館がいまでも図書館と呼べるのかどうか、大いに疑わしいところでした。分類システムは崩壊してしまっていたし、ここまで多くの本が本来の場から離れてしまうと、探している本を見つけるのはほとんど不可能に近いのです。書庫が七つのフロアにわたって広がっているという事実を考えれば、ある書物が本来の場とは違った所にあるということは、それが存在しなくなったに等しいのです。たしかに物理的には、館内のどこかに実在するかもしれませんが。でも現実としては、もう誰も二度とその本を見つけられないのです。》

これは、3月11日震災直後の当館書庫の状況を描写したものでは、もちろんありません。小説家ポール・オースターが彼の作品『最後の物たちの国で』において描いた、架空の国の国立図書館の惨状です。(上の引用は、柴田元幸訳によります。)

オースターは、図書館における分類という仕組みの一端を見事に言い当てています。そう、分類システムが壊れた図書館では、本は館内に物理的には在ったとしても、実質的には《存在しなくなったに等しいのです。》

「コラム：書誌データ探検」は前号に引き続き「分類」がテーマです。

(収集・書誌調整課 大柴)

NDL 書誌情報ニューズレター (年4回刊)

ISSN 1882-0468 / ISSN-L 1882-0468

2011年2号(通号17号) 2011年7月7日発行

編集・発行 国立国会図書館収集書誌部

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1

E-mail: [bib-news@ndl.go.jp](mailto:bib-news@ndl.go.jp) (ニューズレター編集担当)